

あなたが住むまち“このはな”の安心、どこに

ありますか？



あなたを守る あなたと守る



今、これからの紡ぐもの

「共助」の推進、 「わかる防災」から「できる防災」へ

災害に備えて大切なことは、自分自身で守る「自助」だけでなく、地域や身近な人で助け合う「共助」です。というも、災害時は、厳しい状況下において避難者だけで、避難所を運営する場面が多くあります。そのため、平常時に避難訓練を行うことが、避難場所や経路の把握といった学びだけでない、地域や身近な人とのコミュニケーションのきっかけになるなど、あらゆる観点で地域防災力の強化につながると考えており、区役所は一斉津波避難訓練を企画したり、地域で自主的に行われる避難訓練を支援したりしています。あなたの力がだれかを、だれかの力があなたをいざという時に支え合えるように、日頃からもつながりを大切にしたいのです。



安否確認



避難の誘導



情報の共有

避難所での生活

避難直後

- ① 避難者であふれかえる
- ② しばらくは食料品や飲料水などの支援物資が届かない
- ③ しばらくは自治体の職員が派遣されない
- ④ トイレなどの衛生状態が極端に悪化する

厳しい状況下において避難者だけで避難所を運営することになる

避難生活者の声

様々な事情を抱え避難所に集まった者同士で助け合うことが必要不可欠になると思いました。



日ごろからコミュニケーションをとっていた人が多くいたので精神的に助かった。



昔はなかったけど、今はあるもの。

スーパー堤防

淀川の左岸下流、西島地区に整備された、洪水や地震に強い堤防です。阪神・淡路大震災の液状化による沈下を経験し、洪水にも強い堤防として、堤防の幅を広げて市街地側に緩やかな台地状の構造に生まれ変わりました。

